



著者・京谷六二 (Muni.Kyoya)

1962年生まれ。横浜市出身。

1985年光文社入社。以後、2000

年3月までカップ・ブックス編集部。担当

著者は小室直樹、徳大寺有恒、田原総

一郎、永六輔、梁石日他多数。また小

泉純一郎の『郵政省解体論』(梶原一明

との共著)、飯島勲『永田町の掟』(後に

講談社文庫に『代議士秘書』として収録)

も担当。

「週刊宝石」編集部を経て、2002年10月

より広告部にて「女性自身」「FLASH」な

どの広告営業担当。

2010年に退社して志木電子書籍

<http://www.shiki-digitalbooks.co.jp>

を設立。『風流夢譚』(深沢七郎)の電子

化が話題となる。

【電子書籍オリジナル】

東京電力 福島第一原発事故と マスメディア

出版社で編集17年、広告営業8年を経験した著者だからわかる「原子カムラ」とメディアのた
だならぬ関係。そのカネはどのように動き、どうメディアを汚染していくのか？

2006年に開設したブログ「誰も通らない裏道」(<http://fusenmei.cocolog-nifty.com/>)から原発、
メディア関連のエントリーを選び抜いて電子書籍化！ この一冊でニュースの見方が変わる！

主な項目——

●広告で雑誌のお里が知れる？(「ソコトコ」) ●「週刊朝日」、島耕作のダメっぷりと「SPA！」の健闘 ●“電池の時代”が
暴く原子力産業の暗闇 ●不敬企業、不敬メディア ●マスメディアこそが虚業だった ●広告不況がもたらすマスメディアのも
う一つの劣化(文化放送) ●原発広告とメディアの関係(「週刊現代」) ●原発事故とオール電化住宅 ●燃料電池と原子力
発電 ●こういう記事に引っかかる ●圧倒的少数派 ●マスメディア総崩れの中で ●神頼み国家になった日本 ●戦争と原発
事故の違い ●東京電力とメディアが事故後の広告料金を開示しなければならない理由 ●原発の是非は、小学生以上、
四十歳以下の人たちに問うべきだ ●東電はもはや本気で事態を収束させるつもりはない ●「最小賠償企業」を目指す東
京電力の目論みは成功するか？ ●東京電力に破防法適用を！ ●東電の責任追及はテロとの闘いである ●これから首
都圏に家を買うのはおやめなさい——他

本文より——

雑誌広告が低迷する中、コミックモーニングはサントリープレミアムモルツの純広告に島耕作が登場するなど、マンガの
中で社長になった島耕作の昇進景気に沸いており、また数号前からは原作者の弘兼憲史による社長対談という企画も始
まっている。ちなみに先週のゲストは東京電力の勝俣恒久。全編これ勝俣&東京電力&原発ヨイショの内容である。

折しも岩手・宮城内陸地震が起きた。上空から見たその地震の爪痕、驚くべき地形の変化を見ると、いかなる耐震設計
を施そうとも、あのような地震が起きると意味をなさないということが素人でもわかる。

そんな日本列島の上に原発や核処理施設をつくり続ける企業のトップが勝俣だ。

一方、弘兼は島耕作の中でもことあるごとに原発の必要性を紛れ込ませている。島耕作のように一応人気のあるマンガ
の中で、「原発に反対するのは非現実的である」というセリフが出てくれば、これは電力会社側からすれば効果抜群のプ
ロパガンダであろう。

〈『週刊朝日』、島耕作のダメっぷりと「SPA！」の健闘』(2008.6.17)から一部抜粋〉

京都大学原子炉実験所助教 小出裕章氏

「日本が民主主義とは真逆であり、官僚中心の独裁国家で、マスメディアもそのシステムに組み込まれて
いる」という指摘に共感します。ただ、それに気づいている人があまりに少なすぎます。

※その他の電子書店でご購入の場合は500円(税抜き)となります。

東日本大震災から4年、ただいま、
キンドル、シャープ、ブックパス、
ソニー、コミックシーモア、デジ
タルe-hon、ドコモブックストア、
NEOWING、NTTプララ、BookLive!
にて緊急値下げ！(3月24日まで)※
150円で発売中(定価500円)！！